

# 山行報告

## ■ 劔岳

## 〈アルプ山行〉

- 日 程：9月9日(月)～12日(木)
- 参加者：L竹内 SL須増 河崎 谷口 松下 三木(悦)
- 行動記録：

- (10日) 室堂バスターミナル 8:50 発～雷鳥平(10:25 着)10:40 発～別山乗越(12:25 着)12:55 発～劔澤小屋(13:25 着)13:40 発～劔山荘(14:09 着・泊)
- (11日) 劔山荘 6:07 発～一服劔(6:30 着)6:35 発～前劔(7:25 着)7:35 発～平蔵のコル(8:30 着)8:40 発～劔岳山頂(9:10 着)9:45 発～平蔵のコル(10:40 着)～前劔(11:02 着)～劔山荘(12:44 着・泊)
- (12日) 劔山荘 6:20 発～別山乗越(7:50 着)8:05 発～新室堂乗越下(9:10 着)9:18 発～雷鳥平(9:35 着)～エンマ台(9:55 着)10:05 発～みくりが池温泉(10:25 着・入浴)11:25 発～室堂バスターミナル(11:45 着)

## ◆北アルプス北部「劔岳に登る」

## 須増

劔岳は、8月26日に夏山集中山行が終わってから二週間後の山行であった。

9日の夜、大阪からの夜行バスで、翌10日の早朝6時前に富山駅前に着いた。富電・立山ケーブルカー・立山高原バスを乗り継いで室堂BTへ。待ち時間を使って軽い朝食やレーションの補充を行う。夏山シーズンが終わり観光客も少ないようだった。ストレッチ後に「立山玉殿の湧水」を汲んで、スタートする。今日の立山は、少し雲もあるが良く見える。みくりが池、地獄谷の煙を見ながら展望の良い「別山乗越」へ。トイレ休憩後、劔澤小屋を通り今夜の宿泊先である「劔山荘」に午後2時過ぎに入った。宿泊客は意外に少なく部屋は個室になり、乾燥した布団であった。シャワー設備も男女各3人分備えてあって有難い。明日の天気(予報では曇りのち雨)が気になる。小屋の情報では、雨の降り出しが早まるように想えた。



当日11日は、視界に問題もなかったので、5時の朝食を済ませて6時に出発することになった。雨は頂上間近あたりでポツリと落ちてきた。山頂では、写真撮影程度で早々に下山開始する。下りでは本降りになり、浮き石による落石をさせないように足元に注意しながら歩いた。全員無事下山できたが、全域で気の抜けない山だった。劔岳の特徴は、危険と思われる箇所

は必ずクサリや梯子が設置されているように聞いていた。今回クサリ場の通過では、全員が「スリング2丁掛けによる自己確保」を行うようにCLからの指示があり、その対応により安心感が増したと言える。また、河崎さんが、コース経験があったことも心強かった。コース全域で、(○)(X)マークが岩壁にペイントされているが色が薄かったり、分かり難い箇所もある。

ガス発生時や暗い時間帯でのヘッドランプを付けての歩行では、コース判断を誤り事故の可能性が高い。特に単独行は非常に危険であると思った。

事前に読んでいたガイドブックに次のような記載があった(参考に全員に周知済み)。

《劔岳登山を楽しむ8つの約束》・・・最低でも次のことを念頭に！

- ①岩場登りの基本になる三点支持(三点確保)はマスターする。
- ②万一のことを考えてヘルメットを着用する。
- ③トレッキングポールは、ザックにしまっておく。
- ④天候と体調を考慮して絶対無理はしない。
- ⑤天候の急変があるので、午後からの登山はしない。
- ⑥前日は十分に睡眠を取り、深酒はしない。
- ⑦小屋のスタッフが登山自粛を呼びかけたら中止する。
- ⑧グループの場合、絶対にバラけないこと。最後まで、全員一緒の行動をとる。  
・・・下山後、振り返ってみると、常に緊張感をもって注意しながら取り組めたと思う。

⑧項に関しては、岩峰で、ひんぱんに道が左右へ変化する状況になるので、前後間隔を空け過ぎると前にいる人影が消えてしまい迷子になる。SLで後方にいた私は、ときどき遅れ気味になる怖さを味わった(反省)。適当な間隔が大事。

最近、天候に関しては、山から下山する頃によくなる。五竜岳もそうだったが、今回の劔岳も頂上で悪かった。タイミングが少しずれている。帰りの12日は快晴だった。劔山荘からの帰りは、展望の良い劔御前に近い西側のコースを選択。「別山乗越」からは、行きとはコースを変えて奥大日岳方面へ向かい「新室堂乗越」から室堂へ下った。歩きながら後立山連峰(五竜岳など)を立山連峰側から見られたし、劔岳・立山三山の最高の景色が見られた。帰りに「みくりが池温泉」で入浴。楽しい山行ができた。

リーダーの竹内さん初め、パーティの皆さん有り難うございました。

#### 《後記》

8日に劔岳に入山した横浜の19歳の女性が行方不明のニュースがあった。情報を整理してみると、この方は午後5時頃、家族にSNSで「登頂した」とメッセージを送ってから、その後連絡が取れなくなっていた。午後4時頃に劔岳／カニの横ばいを渡っているのを見たという目撃情報などから、8日夕方以降の下山中の遭難が考えられる。県警は、11日朝からヘリで劔岳一帯を捜索していて、12日午前9時頃、前劔と一服劔の間の岩場で遺体が発見された。登頂時刻から考えて、既にヘッドランプを使って歩いていたと思われる。厳しい日程で単独行をしており、急ぐあまり滑落したと推察される。我々は下山後に劔山荘にもう1泊(2泊3日)して余裕があった。彼女の場合、家族の話から9日に会社に出勤予定だったとのことから、夜行で来て夜行で帰ると言う・・・1泊2日のハードな計画だったと考えられる。余裕の無さが慎重さに欠ける行動になったのではないだろうか？やはり午後のこんな遅い時間に登るのは、問題があり過ぎる。会社を1日ぐらい余分に休めなかったのか？と悔やまれる。まだ若かったから調整しにくかったのかもしれない(合掌)。

## ■お月見ビバークⅣ(in 高御位山)

●日 程：9月14日(土)～15日(日)

●参加者：L佐々木 SL森本 上田 切貫 黒本 笹木 福田(正) 三木(勉)

●行動記録：

(14日) 鹿島神社大鳥居 16:10 発～馬の背分岐(17:00 着)17:07 発～桶居山分岐(17:12 着)  
～桶居山分岐北ビバーク地点(17:30 着)

(15日) ビバーク地点 6:45 発～桶居山分岐(6:55 着)～馬の背分岐(7:07 着)7:12 発～鹿島  
神社大鳥居(7:45 着)

### ◆こんなお月見がしたかった

笹木

「山の上でお団子を食べて月を見ながら一夜明かすんですよ」そんな案内に魅かれて参加したお月見ビバーク。馬の背から登り、桶居山への分岐を少し下りた辺りで、タープ1つとツェルト4つを張り終えたところで、空を茜色に染めて夕日が沈んだ。ブルーシートを囲んでランタンを灯す。まずはKさんの野点から始まり、リーダー心づくしのお団子を頂く。山の上でお抹茶をいただけるなんて何と贅沢なひと時。有難うございます。次々と皆が持ち寄ったおつまみがブルーシートの上に並んでお月見の始まりだ。Mさんの楽器演奏が始まる。歌本を広げて、次から次へのリクエストに応じて、ケーナ、オカリナ、ハーモニカと、自由自在。その楽の音にみんなが声を合わせ歌う。

18時51分、すっかり黒くなった山の稜線から月がぽかりと頭を出した。待ってました！と、みな思い思いにシャッターを切る。瞬く間に全形が上ってきた。黄色い大きな月だ。

月を愛でながら、飲んで食べて歌いふけていると突然、暗闇の中からヘッドランプが近づいてきて一人の男性が走り込んできた。「音楽が聞こえたんで。。。」と人懐こい笑顔で話しかけて来る。長尾から桶居山までピストンするというその38才の男性を引き込んで山の話に盛り上がる。その内「どこから来たの～?」「独身ですか～?」同じ質問が繰り返されるようになると、男性は笑顔で走り去っていった。が、30分もすると戻ってきた。「早すぎるんと違う?」途中に倒木があって行く道がわからず、結局桶居山の手前で引き返してきたという。暗闇の中ではそれが賢明。21時。宴もたけなわ。辺りは夜の帳に包まれ、ランタンの灯りがほのかに皆の顔を照らす。遠く西の彼方には街のネオン。遮るものが何もない澄みきった空に凜と浮かぶ白い月。別世界の月にしばし見とれる。きれいやな～。こんな月見をしたかった。

22時。メンバーの動きが段々と鈍くなってきた。バラバラの話にうなづきあっている。誰からともなく「そろそろ寝ましょーかー」誰がどこへ寝ようかと言い合っていると、それまで横になっていた一人がムクッと起き上がり、ピシッと敬礼して「おはよーございます!!」それを合図にお開きになった。私達も寝る支度をして戻ると、まだ2人シートに座っていて「もー寝るんか、話しょーなあ」引っ張られてまた座る。Uさん曰く「貴女にとって山は何ですか?」



「山に登るんは、挑戦と退却や。もう、剣は退却やな。」「それでもまだ果たさないかん約束が2つあるんや」「山はええなあー、自己責任で登るから、それがええんやー」としみじみ言われた。そんな話を繰り返し繰り返し語るその人の顔が月光の下で輝いている。私にとっての山はなんだろう。山の上でこんなひと時を楽しむことかもしれない。

ツェルトに入ってもなかなか眠れなかった。近すぎず遠すぎずの所で鳴いている虫の音が心地よい。外でガサガサと道を下りていく音がする。が、戻ってくる気配がない。どうしたん？ 気になって出てみると、ヘッドランプが道端に転がっている。その先 5mの所で道の窪みに寝ている人がいる。「大丈夫や、ほっといて。」それは出来んわ、外は冷えてくるシゴロシゴロの石の上で寝るには痛いやろ。何とか戻って頂いて、またツェルトに入る。そのあとも何度か「大丈夫かー？」「大丈夫やー」と大丈夫でない人同士の会話を聞きながら夜が更けていった。

5時。東の空が明るくなってきた。うす桃色が次第に濃くなっていく山の端をじっと見ていたが、下雲がかかっご来光は拝めなかった。起床一番、リーダーが夜明けのコーヒーをミルでひいてふるまって下さった。寝不足の頭と体がしゃんとする。さあ、下山だ！西の空には有明の月がひっそりと残っていた。

最後に、下山時の皆様は陽気で足取りも確かだったことを報告しておきます。

## ■六甲・逢山峡からシュラインロード

- 日 程：9月16日(月・祝)
- 参加者：La 砂川(延) SLa 矢根 阿部 天野 生永 小田(敏) 乙坂 兼澤 田中(重) 田羅間 土井 Lb 島谷 SLb 安田 河合 徳本 西川 橋本(万) 春本 福田(正) 古澤 松井 山下(雅)
- 行動記録：神鉄唐櫃台駅 9:55 発～唐櫃台駅前公園(9:55 着・ストレッチ) 10:05 発～からと東 IC 下(10:25 着)～東山橋(逢山峡登山口)(10:30 着) 10:35 発～茶園谷分岐(10:55 着)～猪鼻橋(長尾谷)(11:10 着)～鳥居(シュラインロードライン)(11:20 着) 11:30 発～行者堂(12:00 着) 12:30 発～ノースロード分岐(12:40 着)～前ヶ辻(アイスロード)(12:50 着) 13:00 発～新六甲大橋下(14:05 着) 14:15 発～六甲ケール下駅(14:25 着)

### ◆逢山峡からシュラインロード

古澤

神鉄新開地駅に9時集合し、参加22名全員で神鉄唐櫃台駅迄乗車しました。

車内は乗客もまばらで、殆どが高御位山遊会のメンバーでした。私は小学生の遠足の光景をふと思い出しました。約30分で唐櫃台駅に到着。駅前で準備体操後2班に分かれて10時過ぎに出発。住宅街の緩やかな坂道を約1km登って山道に入ります。その頃には既に汗が流れて度々ハンカチで顔をぬぐいます。木陰の道とは言え暑い。腕時計では気温29度！納得。

しかし、谷川の流れる音が暑さを少しずつ和らげてくれます。林間のフィトンチッドを浴び周囲の緑を見ながら歩くと気分も爽やかになってきます。最初に目に付いたのは、ピンク色の小さな花を房状につけた植物です。帰宅後調べると、フサフジウツギのようです。園芸店ではブツレアの名前で販売しているらしい。フサフジウツギは日本の自生種かな？ 背の高い木々に囲まれた登山道の林縁には、ウツギやコアジサイがあり花咲く季節は美しいだろうなと思いました。又、同じ班の男性が足元のハンミョウを発見されました。美しい虹色の羽を持つ昆虫です。道教え、とも呼ばれますが、道案内してくれる事もなく脇の草むらに入ってしまう

ました。ノコンギクやツリフネソウを見ながら歩きます。

溪流沿いの道から標高550mを超えるとアカマツ・コナラ林。ヒノキの人工林。環境の変化もあるコースです。標高600m位からシュラインロードに入ります。予習をサボった私はシュラインとは何やろう？と思いながら歩を進めます。事前に調べておけばもっと楽しく歩けたのにと反省しています。帰宅後、その情報を入れていただいた方に感謝です。

行者堂で昼食をとり、暫く歩くと別荘地に入りました。この辺りの地形は平坦で、大小様々の別荘や保養施設が立ち並んでいます。どんな方が別荘ライフを楽しんでるんだろう、と少々羨ましくなりました。



前ヶ辻で記念写真を撮り下りのアイスロードに入ると、視界が開け神戸の街並みと美しい海があらわれました。これが六甲山の魅力の一つだと実感します。

急傾斜地には金属製梯子が取り付けられてあり、こんな道をも明治時代に氷を街迄運搬するのは苦労があったらうなと想像します。

トラバースの緩やかな道で渡りをするアサギマダラに出会いました。南の国迄の旅の途中で六甲山で休憩中なんではいしょうか。クロモジの匂いを嗅いだり昆虫・植物を楽しみながら六甲ケーブル下駅に全員無事に下山できました。

草花はノアザミ ツユクサ センニンソウ ゲンノショウコ クズ。

樹木はカエデ類 ツツジ類 アセビ ヤシヤブシ ケヤマハンノキ ソヨゴ ネジキ リョウブ等々樹木ウォチングも楽しめた山行になりました。

ご一緒頂いた皆様ありがとうございました！アクセスの良い山なので機会があれば又参加したいと思います。

## ■見野古墳群・小富士山を巡る

●日 程：9月22日(日)

●参加者：L森本 SL澤田(律) 天野 生永 上田 内海 小田(敏) 乙坂 垣内 切貫 佐野 徳本 西川 野村 春本 福田(正) 福原

●行動記録：JR 御着駅 8:30 発～見野古墳群(8:55 着)9:25 発～見野の郷交流館(9:30 着)9:50 発～宮山古墳(10:20 着)10:25 発～埋蔵文化財センター(10:30 着)10:40 発～壇場山古墳(11:30 着)11:40 発～山之越古墳(11:50 着)11:55 発～お好み焼き「みわや」(12:15 着)13:30 発～御着城址(13:40 着)13:50 発～JR 御着駅(14:15 着)

## ◆姫路古墳巡り

乙坂

今回の山行は12kmと長距離だが、大半が平地とあり、朝からポツポツと降る雨対策にジャンプ傘を片手に集合場所に集まった。およそ30分程歩いて「見野古墳群」に到着、大小10基ほどの古墳が山の中腹辺りに点在しており、古代この辺りが栄えていた事を思わせた。

「見野の郷交流館」では姫路城周辺の昔の写真の展示があり、日露戦争時代のロシア人俘虜収容所の写真や袴や着物姿の女性、戦前は姫路城周辺は松で覆われたお城だったが、松くい虫の大発生から桜の名所へと変わった写真、姫路城昭和の大修理の風景など、改めて姫路は歴史のある街なのだなあと感心しました。

四郷学園(小学校)の横から小富士山へ上る登山道に到着しましたが、本日天候が良くなかったので、登山口の確認だけで終え、「宮山古墳」へ。ここで沢山の装飾品や刀や槍が出土され、隣の「埋蔵文化財センター」に展示されているのを見学。古代人が作ったと思えない耳飾りのレプリカに驚きました。県下2番目に大きい古墳「檀場山古墳」まで歩いて移動時は、かなりくたくたでした。雨で座り込むことが出来ず、歩きっぱなしはキツかった。



お好み焼き「みわや」で豚玉を食べている最中、雨も本降りとなり、この後の移動が心配でしたが、店を出る頃には小降りとなり、最後に「御着城址」の黒田官兵衛ゆかりの地を見学。歴史三昧の一日でした。

皆様お疲れ様でした。リーダー、雨の中ありがとうございました。

## ■涸沢カール2310m

●日程：9月28日(土)～30日(月)

●参加者：L澤田(律) SL島谷 SL安田 乙坂 笹木 高島 中村 橋本(万) 平石 矢根

●行動記録：

(28日) 大阪阪急三番街 21:30 発—(さわやか信州号利用)

(29日) 上高地(5:20着)5:55 発～明神(6:50着)7:00 発～徳沢(7:50着)8:10 発～横尾(9:10着)9:30 発～本谷橋(11:00着)11:30 発～涸沢ヒュッテ(13:40着・泊)

(30日) 涸沢ヒュッテ 6:30 発～本谷橋(8:10着)8:25 発～横尾(9:30着)9:45 発～徳沢(10:45着)11:30 発～明神(12:15着)12:25 発～上高地(13:10着)15:40 発—大阪阪急三番街(22:00着)

## ◆始まったばかりの紅葉と感動のモルゲンロート

笹木

「涸沢の紅葉を見ずして穂高を語ることなかれ」この山行にあたり、まずは紅葉、そして涸沢に泊まるなら是非ともモルゲンロートを見たいと思っていた。先だって心配なのはお天気だ。予報では降水確率50%、カップを装着しての登山を覚悟していたが、夜行バスで降り立った

上高地では、河童橋から見る穂高連峰は雲で覆われていたものの、東の空には薄日が差し込んでとりあえず明るい気持ちで歩きだした。梓川沿いに横尾まではほぼ平坦な道でおしゃべりながら歩けたが、横尾からは本格的な登山道に入る。本谷橋の河原で昼食をとった後は次第に急な岩道を登った。登山客もどんどん増えて、私達10人のパーティは、下山してくる人や登って行く人達に適宜道を譲りながら、ほぼ予定通りのコースタイムで涸沢ヒュッテに着いた。

途中雨がぱらつくときもあったがカッパを着る程でもなく幸運だった。河童橋あたりではチラホラだった紅葉も、標高が高くなるにつれて黄色が増えてきていた。ヒュッテ手前の急登には真っ赤に染まることで有名なナナカマドが群生しているが、残念ながらその葉



はまだ青かった。とは言え、緑の葉っぱの中に赤い実が鈴なりにになっている様はそれはそれで美しかったけれど。到着後、部屋に荷物を置いて辺りを散策、カール全体が見渡せるスポットに行った。背面をぐるりと穂高連邦に囲まれたカールの中程に茶色のヒュッテとテラス、山裾には紅葉が始まったばかりの草木の絨毯が緑、黄色、茶色、オレンジ色と伸びて、中央の灰色の岩地にはカラフルなテントがいくつも並び、華やかに色を添えていた。雄大な眺めだ。

ポツポツ雨が降り出し、散策は中止してヒュッテに戻りコーヒータイムをした。憧れの涸沢ヒュッテのテラスでお湯を沸かしてコーヒーを飲むなんて最高！ガスを持参いただいた中村さんに感謝です!! その後雨足が強くなり、夕方近く登ってきた人のカッパはずぶ濡れ状態だった。私たちはラッキーだったが明日の天気心配になって来る。ここまで来たら欲深く満天の星も見たい。

19時過ぎに床に入ってすぐに入眠。途中何回か目が覚めて明け方に「星が見えるよ」の声に外に出てみる。北斗七星とオリオン座がひと際大きく輝いていた。もう寝ていられない。予定より早めに支度をしてテラスに出ると、既に人が集まり朝食をとっている。ひんやりした青い空気の中、売店で買ったパンとコーヒーをいただいた。黒い山の稜線が次第にくっきりしてくる。そこに集まっている人達が心をつ一つにして今か今かと日の出を待っていた。5時41分、穂高の山々に朝日が差し込むと歓声が上がった。あれが涸沢槍、その隣が涸沢岳、こちらが北穂高、奥穂高、前穂高。3000m級の山々の天辺が朝日に赤く染まっていく光景は感動だった。「ずっとこの景色を見ていたい」そこにいた全ての人がそう思ったことだろう。その内、ゆっくりと光がカールに下りてきて辺りが日常の空気変わった頃、人々の移動が始まり私達も下山を始めた。

今回、紅葉は少し早かったけれど、憧れの涸沢ヒュッテに泊まり、天候に恵まれモルゲンロートが見られたことは大きな収穫で、自分の足で登ってきてこそその感動だった。出発前に何度も気象情報を知らせて下さったリーダー、同行頂いた皆様のお陰で思い出深い山行になりました。有難うございました。

## ■<sup>こ</sup>国府山・お旅山(祭りしたくの村を歩く)

- 日 程 : 10月5日(土)
- 参加者 : La 島谷 SLa 澤田(律) 天野 生永 小田(敏) 徳本 橋本(万) 平石 平井  
Lb 安田 SLb 矢根 内海 貝塚(陽) 兼澤 砂川(美) 田中(美) 苦瓜 村上
- 行動記録 : 山陽妻鹿駅 8:50 発～国府山頂上(9:30 着)9:35 発～お旅山頂上(10:25 着)10:40 発～広畠(ひろばたけ)練り場通過(11:20 着)11:20 発～とれとれ市場(11:45 着)12:30 発～松原八幡宮(12:50 着)13:05 解散

### ◆祭りしたくの村を歩きました

生永

朝からぴかぴかの晴天です。妻鹿駅前の広場にはシデ棒が立ち、道には提灯が高く掲げられ、第一歩からお祭り気分です。市川沿いに歩いて荒神社でストレッチ。まずは国府山に登ります。10月とは思えない暑さで早くも汗だらだら。山頂に到着すると、市川の向こうに姫路の街が一望できます。「あれがお城や」「姫路って広いなあ」と話しながら休憩しました。下りは一部藪漕ぎしながら神社に戻りました。町の中を歩いてお旅山登山口へ。また汗をかきかき登ります。

お旅山山頂は360度展望が開け、素晴らしい景色です。立派な東屋があり道中にベンチも設置されていて、地元の人に親しまれているのがわかります。

ここで記念撮影をして下山。

御旅所に着き、リーダーから屋台は坂道を転がすのではなく担いで登ってくる、練番(ねりばん)以外の6基の屋台の置き場が並んでいることの説明がありました。さらに下って行くと、小学校から歓声が聞こえてきます。運動会かな?と思ってたら相撲大会でした! 相撲の盛んな土地とのこと。

そしていよいよ広畠に到着。写真や映像で見ると広い所のように感じますが、練り場は意外と狭いです。この狭い練り場で神輿や屋台を2台・3台と練り合わせるからあの迫力なんやなあ、納得しました。

練り場から町の中を急ぎ足で「とれとれ市場」へ。予約して下さったので、待たずに食べられました。天井おいしかったです。それなのに他の人が食べてる海鮮丼のほうがおいしそうに見えるのは何故?満腹を抱えてまた町の中を歩き、鳥居をくぐって松原八幡神社に着きました。すでに神輿が3基拝殿に並んでいます。リーダーから、宮入りの時は屋台の擬宝珠をいったん外して楼門をにじるようにしてくると説明がありました。「腕守り」についても教えてもらい、実物を見せていただきました。最後に神社の境内でストレッチをして解散。

超有名な「灘のけんか祭り」ですが現地を訪れたのは初めてです。これからも登山を通じて地元や近辺のことをもっと知りたいと思いました。

